

小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	8	施策名	安全・安心な暮らしの確保	
小施策コード	8-4	小施策名	交通安全の推進	
小施策 主管課等コード	047200	小施策 主管課等名	くらしの安全課	
評価責任者名	割船 活彦		内線番号	2680
評価シート作成者名	晴山 満		内線番号	2681

Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
まちづくり評価アンケート調査「避難場所を知っている」と答えた市民の割合	↑	%	69.0	72.7	76.2	75.0	80.0
まちづくり評価アンケート調査「防災対策をしている」と答えた市民の割合	↑	%	60.7	57.9	62.1	70.0	80.0
人口1万人当たりの火災発生件数	→	件	1.7	1.6	1.5	1.7	1.7
人口1万人当たりの刑法犯発生件数	→	件	68.4	57.6	51.2	68.4	68.4
不適正な管理状態にある空き家等の相談件数	↑	件	60	178	139	85	85
消費生活相談の解決率（解決した件数／消費生活相談件数）	↑	%	98.5	98.8	98.9	99.0	99.0

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
市民	交通事故の被害に遭わないようにする。
現状と課題	市の交通事故発生件数は、15年以降、減少傾向が続いているが、高齢者が関係する交通事故が増加傾向にある。高齢者人口が増加する中で、高齢者を交通事故から守る取組が重要となる。
取組の方向性	警察や交通安全協会と連携しながら、子どもから高齢者まですべての人が交通事故から守られるよう、特に高齢者に重点を置きながら効果的な交通安全教育・啓発事業に取り組む。

Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
人口1万人当たりの交通事故発生件数	→	人	28.0	25.8	22.0	28.0	28.0

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

Step 4 市民ニーズの把握

市議会において、自転車の安全運転に関する啓発や高齢者の事故対策に力を入れるべきとの意見等が出されており、市として取り組んでいく必要性がある。

Step 5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率（%）
各主体の 役割の状況	市	市民への直接的な啓発活動のほか、近隣市町村との連携に中心的な役割を担っている。	25
	国・県・ 他自治体	市町村への情報提供や全県的な取り組みに中心的な役割を担っている。	25
	市民・ NPO	市民にとって身近な問題であることから、一人ひとりが積極的に取り組むことが求められている。	25
	企業・ その他	通勤や業務活動等にも関わる問題であることから、他の主体と同様に取り組むことが求められている。	25

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

交通事故は全ての市民が様々な場面で遭遇する可能性があることから、事故防止のためには、行政、企業、各種団体及び市民一人ひとりが主体的にかつ継続的に取り組む必要がある。

Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ 他自治体への実施している啓発事業の照会
- ・ 各町内会・自治会・老人クラブ連合会等関係団体に対する交通安全教室実施に向けた働きかけの実施

2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済， B：平成29年度に着手（予定含む）， C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
他自治体への実施している啓発事業の照会	県内他市へ啓発事業を照会したが、高齢者宅戸別訪問指導、交通安全教室の開催など取組のほとんどは既に盛岡市においても実施済みである。	A
各町内会・自治会・老人クラブ連合会等関係団体に対する交通安全教室実施に向けた働きかけの実施	老人クラブに対する交通安全教室実施案内の送付及び市ホームページへ交通安全教室開催案内を掲載した。	A

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step 7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

交通事故発生件数及び事故死亡者数は減少傾向にある。

(2) 成果をあげた要因

- ・ 幼稚園・保育園，小・中学校，老人クラブ等での交通安全教室の開催
- ・ 街頭啓発活動の実施

(3) さらなる成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

高齢者の安全対策

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

高齢者が関係する交通事故の発生割合が高い。

(2) 現状の問題点が生じている原因

学校等と異なり、多数の高齢者が参加する啓発事業の実施が困難である。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ 高齢者を対象とした効果的な啓発事業に関する取り組みの情報収集
- ・ 町内会・自治会や市老人クラブ連合会等関係団体との更なる協働の取組

Step 8 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業
該当事業なし。

2 1で記載した事業についてその理由

3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 高齢者交通安全教室開催のPR
- ・ 警察等交通安全関係団体との連携による高齢者に対するの更なる啓発
- ・ 警察等交通安全関係団体と高齢者に対する効果的な啓発の協議を行う。